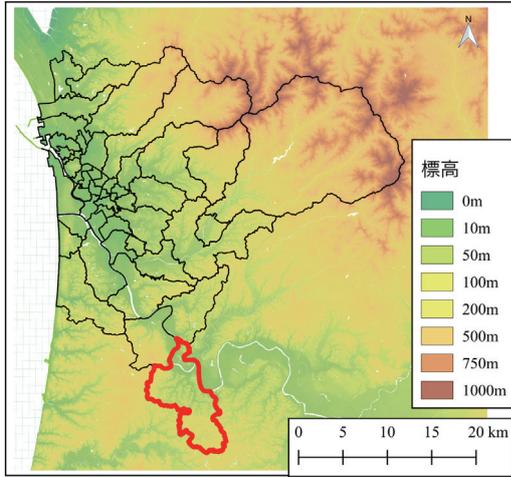


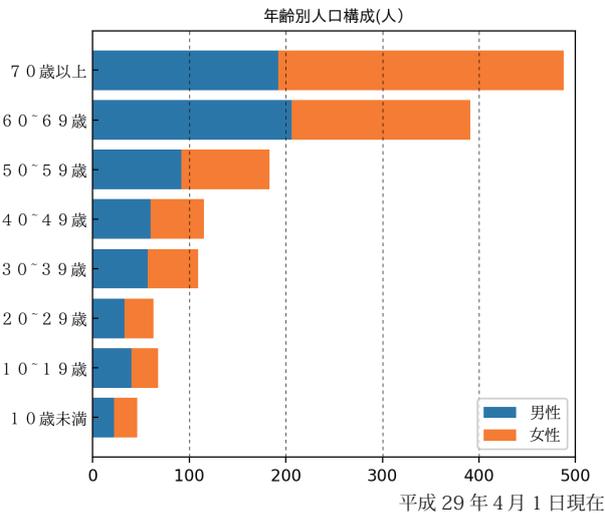
# 47：雄和小学校（旧大正寺小学校）区

## 位置図



## 1 居住者の現況

人口	1,463 人
世帯数	649 世帯
65 歳以上人口	694 人
10 歳未満人口	46 人



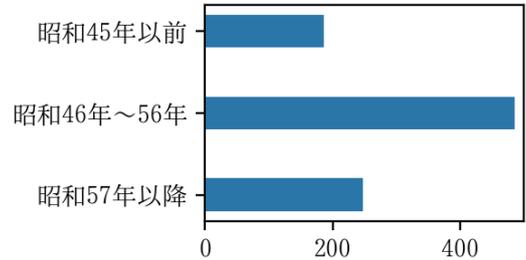
## 2 建物に関する指標

### ■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	920
非木造建物	42

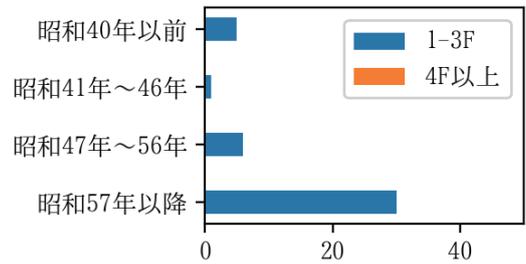
### ■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	248
昭和46年～56年	486
昭和45年以前	186



### ■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	30	0
昭和47年～56年	6	0
昭和41年～46年	1	0
昭和40年以前	5	0



## 自然的・社会的基本指標

雄和地区の南部に位置し、雄物川右岸の低地部（左手子、向野地区）、雄物川左岸の平地と山地部からなる地区（繫、新波、神ヶ村、碓田、萱が沢地区）である。ほぼ全域に急傾斜地等の土砂災害の危険域が多く分布する。集落は雄物川周辺およびその支川（繫川、神ヶ村川、新波川）に沿って散在する。人口構成は特に50歳以上の年齢者層が占める割合が高い。65歳以上の高齢者層は47%を占める。建築物のほぼ全数が木造建物である。昭和57年以降の建築物は全体の29%となっている。

### 3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

#### ■ 洪水

指定河川	雄物川		
浸水面積 (%)	9.4		
最大浸水深 (m)	ランク 5		

#### ■ 土砂災害

\* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	83	萱ヶ沢、船ヶ沢、又三郎沢、上繁、陣笠、新波字竹の花、樋口、碓田字宮ノ前 他
土石流危険溪流	69	シコウ沢沢、テンザ沢、ニタノ沢、家の沢、館野腰沢、宮ノ前沢、宮前沢、窪沢 他
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	94	上繫、樋口、大橋、西脇、碓田字中村、上田面、野開、陣笠、クネソエ 他

\* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	41	大橋沢 1、2、3、窪沢、杉腰沢、船卸沢、樋口 1 号、2 号、妙角 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

#### ■ 地震および津波

\* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.73)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	0	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	3.9	

\* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

### 4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

#### ■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	2
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	1

#### ■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	1
こども園	0
幼稚園	0

#### ■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	0

#### ■ 学校等

種別	施設数
小学校	0
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

### 5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

#### ■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	69
防火水槽 (箇所)	33
消防車台数 (台)	10
消防ポンプ数 (台)	11
消防団員数 (人)	54

#### ■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	4
土砂災害	4
地震	6
津波	0
福祉避難所	0
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	1
最寄りの救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	8

### 自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により、右岸域の平地部、左岸域の繋川、神ヶ村川、新波川の中流部に至る平地部は集落を含めて広く浸水域となる想定である。新波橋の両岸は浸水の著しい箇所となるため交通が困難となる可能性が高い。

土砂災害の危険性がある箇所は多く、そのうち 41 箇所 (急傾斜 23 箇所、土石流 18 箇所) が警戒区域等の指定を受けている。

地震動については、ほぼ全域が同様の揺れやすさとなっている。平地部では液状化の危険性が高い。津波による浸水の可能性はないと想定されている。

### 防災上の課題と対策

大正寺小学校区は、秋田市の最南端部に位置し、雄物川右岸の向野・左手子地区および左岸の新波、碓田、神ヶ村などの地区からなる。緊急輸送道路である国道 341 号が学校区外への主要な連絡道路であることから、災害時の交通の確保が重要となる。さらに、医療機関が少なくかつ救急告示病院までも遠い地域であることから、平時より要援護者

および傷病者の搬送体制について、ヘリの活用を含めて検討することが望まれる。

学校区の南部の集落は小河川沿いに点在しており、土砂災害の危険性が高いところが多い。

地域の建物の多くが旧耐震建築物である。

指定避難所及び緊急時一時避難場所は、新波地区に集中している。災害の種別によっては避難自体が困難な集落や、避難するにあたっても相当の時間を要する集落も多い。こ

れらのことから、集落単位で、避難のタイミングや移動の経路と方法、緊急時の連絡方法、その他備蓄などについて集落単位で避難計画を検討し、その実効性を住民自ら確認するなどの事前の防災活動の展開が望まれる。

地域内の協同・相互補助の意識は高いと見られるが、平時からの地域間協力および補助団体との提携などについても検討が望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
旧大正寺小学校グラウンド	x	○	x	○	x	x	10,200人
旧大正寺小学校（体育館）	○	○	x	○	x	x	288人
雄和新波野球場	x	○	○	○	x	x	5,755人
雄和南体育館	○	x	○	○	x	x	263人
竹の花公園	x	○	○	○	x	x	2,500人
雄和基幹集落センター （大正寺連絡所）	○	x	○	○	x	x	154人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
(該当なし)		

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

